



ルーテル学院大学1年生
ぶらっとほーむリーダー 津留 乃彩さん

やりたいことはYMCAにあった

朗らかな笑顔が印象的な津留乃彩さんはYMCAで活動するユースリーダーの一人。大学に入学したばかりの2022年春、先輩に誘われて参加したのが「ぶらっとほーむ」でした。学校などに生きづらさを感じている子どもたちの居場所づくりを目指す「ぶらっとほーむ」は、コロナ禍に不登校児が増えていることを受けてユースリーダーたちが自ら企画し、2021年度にスタートした活動。大学で心理学を学んでいる津留さんは「自分自身の学びになり、子どもたちの居場所づくりにもなる。『Win-Win』だ、と思いました」と語ります。

週に1回、YMCAに集まる子どもたちとリーダー。実際に活動を始めて「自分のやりたいことが見つかった」と津留さん。しかし、「夏に一度、どん底に落ちました」。

ぶらっとほーむは8月に子どもたちと4泊5日のキャンプを実施。津留さんは年長の男の子の担当になりました。性別も年齢も違う相手と付き切り切りの状況に「どうしたらいいかわからなくなってしまった」という津留さん。自分の思い通りにいかず、3日目の夜には「もう無理。できない」と布団の中で泣いていたと言います。津留さんは他のリーダーたちに思いをぶつけました。「すると『子どもがやりたいことを一緒に楽しんだらいいんだよ』と言われました。私は子どもの興味を自分に向かせなければいけないと思い込んで、いっぱいいっぱいになっていたんです。もっと楽しんでいたんだと思いました」。

ここが私のかけがえのない場所

世界の広さを感じた日本YMCA大会

今、津留さんが心がけているのは、何も隠さず、等身大で子どもたちと接すること。「ぶらっとほーむの参加者には、以前は、学校で元気に友だちと話していたのに、何かがきっかけで本当の自分が出せなくなった子どももいます。私があるのままで接すると、相手もぼろっと自分を出してくれるんです」。

数カ月の間に経験を積んだ津留さんは、11月に全国のYMCAからユースや会員、職員が集まる日本YMCA大会に参加しました。「『津留さんを推薦します』と言われて『1年目の私でいいの?』と不安になりました。でも、参加してみると様々な年代の方々のお話やYMCAの歴史について聞くことが出来て楽しかった。他県のYMCAの人たちとつながり、いっしょに輪が広がりました」。大会ではYMCAの支援によってウクライナから来日避難した女性による講話がありました。「ご本人が泣きながらお話しされていたのが印象的でした。私が安全に暮らしているのに、違う地域では争いが起こっているということを身近に感じました」と津留さん。「大会中に近くで花火が上がりました。私たちは喜んで見ていたけれどウクライナの方は泣いていた。爆撃の音を思い出すからです。自分が嬉しいことも、相手にとってはそうでないかもしれない。リーダー活動で子どもたちと接する時も一人ひとりの尊厳を大切にしたいと思いました」。



日本YMCA大会で発表する津留さんたち

子どもたちとつくる皆の居場所

リーダー活動を「誰かのためにやってあげている」とは全く考えていないという津留さん。「YMCAは自分が成長できる場所。活動する度に自分が変わっていくのがわかります。一人ひとりの子どもが持つ世界観を大切にしながら、一緒にいろんな世界をみて、選択できるものを増やしてあげたい。その中で、私の世界も広がっていく気がするんです」。時には子どもから手紙をもらうことも。「『毎日ぶらっとほーむのことを考えているよ』って書いてあるのを見て、ああ、本当に彼らの居場所になっているんだと感じました。ぶらっとほーむは子たちだけでなく私たちにとっても大切な居場所なんです。集う子たちとリーダーがいっしょにつくる空間こそが皆の『居場所』になってるんですよ」。

津留さんの願いは、ぶらっとほーむのことを多くの人に知ってもらうこと。「不登校の子どもたちが訴えていることに耳を傾けてほしい」と語ります。「そして、将来はぶらっとほーむを学校に行けない子どもだけでなく、様々な立場、年代の人の居場所にしたいんです。いつか『ぶらっとほーむ』という一つの家をつくりたい。誰もが来たい時に来たいいい泊ってもいい。庭には畑があって野菜を育てて…そういうところまでぶらっとほーむをつなげていきたい」。津留さんの夢は始まったばかりです。

Pickup

皆でがんばったね
尾ヶ石保育園
クリスマス発表会



みなみセンター
「クリスマスプレゼン
トのお礼カード
を書いたよ」

「みんなでクリスマス
をお祝いしよう」
永草保育園



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

1月22日 Sunday

熊本YMCA学院 児童福祉教育科 卒業発表会



学び
×
発表

YMCA学院で保育者を目指して学ぶ児童福祉教育科(現こども保育科)の学生たち。卒業を控えた3年生の学びの集大成として卒業発表会を開催します。大人から子どもまで楽しめる演目です。

回1月22日(日)
13:30開場 14:00 開演
場 熊本市植木文化ホール(熊本市北区植木町岩野) 因 創作劇、合唱 費 無料
問 YMCA学院 Tel 096-353-6393



昨年度の様子

3月31日~4月3日

富士山の雄大な自然を訪ねる旅



自然
×
体験

富士山の裾野には美しい森林が広がり、湧水、巨樹、300を超える溶岩洞窟群等が訪れる人を楽しませてくれます。経験豊富なスタッフが自然散策や洞窟探検の旅に皆様をご案内します。



回3月31日(金)~4月3日(月)3泊4日
宿 宿 国際青少年センター YMCA東山荘(静岡県御殿場市東山) 因 小学生~大人
集合解散 熊本駅新幹線口
費 中学生~大人 100,000円 小学生 96,000円
問 YMCAトラベル 有限会社ユース・コーポレーション
Tel 096-325-5177 詳細・お申込みはWebで



1月30日 Monday

熊本バンド147周年記念行事 早天祈祷会

熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じこの教えを日本全国に宣布しようと誓約した「熊本バンド」の青年たち。日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟147周年を記念して、早天祈祷会を開催します。

回1月30日(月)6:30~7:30 場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

奨励「キリストの弟子」 小副川幸孝さん(九州学院 院長)

※ライブ配信をいたします。感染拡大状況により、現地での参加をお控えいただく場合があります。現地参加の可否は熊本YMCAのWebサイトまたはお電話にてご確認ください。

問 熊本バンド147周年記念行事実行委員会 問 熊本YMCA Tel 096-353-6397



▲熊本バンド
記念行事
Webページ



いじめについて考える ピンクシャツデー



2007年、カナダの男子学生がピンクのシャツを着ていじめに遭ったことを発端に、世界各地に広まったいじめ反対運動「ピンクシャツデー」。YMCAも毎年、各拠点で取り組んでいます。

YMCAピンクシャツデーの目的

- ・いじめの問題を自分事としてとらえ、「いじめをなくそう」というメッセージを自ら発信し、行動します。
- ・一人ひとりが互いの存在を認め合い、支え合い、自分らしく生きていける社会の実現を目指します。

今年のピンクシャツデーは2月22日(水)。熊本YMCAではこの日を中心に2月20日(月)~26日(日)までの1週間をピンクシャツウィークとして実施予定です。ピンクの服や小物を身に付けて、一緒にいじめや差別について考えましょう。 問 Tel 096-353-6397



日本YMCA同盟表彰報告

YMCA運動に奉仕された加盟YMCAの会員への表彰・感謝が、2年に1度日本YMCA同盟により行われています。今年度受賞者をご紹介します。

25年継続会員賞

<50音順 敬称略>

秋山真理子 秋吉睦 井川みゆき 今村格 岩切由利香 江上緑
柏原芳則 木下康 草本昌子 下田知佐子 杉野茂人 田上かつみ
西八条敬洪 平山俊生 布田悟 馬原陽美子 村上博 山尾敏孝
山田芳之

50年継続会員賞

小山哲夫

感謝

福田稠 武藤興紀

25年勤続者賞

牛嶋加佐喜 熊本哲朗 辻健太郎 皆見治男 吉田美華

集会用テント4張が寄贈されました

一般財団法人日本宝くじ協会より、集会用テント4張が寄贈されました。テントはさっそくバザーや運動会で使用しました。今後も地域活動などで有効に活用します。



回日時 場会場 因内容 費参加費 因定員 因参加条件 因持ち物 因対象 因主催 因締切 因申込 因問合せ 因その他

R | E | P | O | R | T

[11月19日⇒ 12月10日]

祈り

YMCA・YWCA

合同祈祷会を開催

世界YMCA・YWCAでは毎年11月の第2週を「合同祈祷週」として世界平和の実現を願う祈祷会を行っています。今年は、「ignite : Praying the Impact (運動の拡がりに火を灯す～祈りによって)」をテーマに世界各地で祈りの時が持たれました。

熊本では、11月19日(土)に熊本大学YMCA花陵会館を会場に熊本YMCA、YWCA関係者16名が参加し、合同祈祷会を行いました。第1部礼拝では、日本福音ルーテル熊本教会牧師の小泉嗣さんから「心

燃やして」のテーマでルカによる福音書24章32～35節をもとに説教がなされました。

第2部では、各団体それぞれの活動や近況について話し合い、交流しました。また、参加者の自己紹介を通じて、YMCAとYWCAの共通の目的を持ったそれぞれの活動を知り、改めて各団体における活動の意義について確認することができました。

職員 福山裕敏



募金

子どもたちも参加

街頭募金活動を実施

熊本YMCAでは「子ども・若者・国際」をテーマに毎年11月から1月末まで、YMCA年末募金に取り組んでいます。その一環として、2022年11月26日(土)と12月4日(日)に県内外の11カ所で街頭募金活動を行い、433,121円の募金が集まりました。

幼児から大人まで、また、海外から日本語を学びに来た留学生ら約300名のボランティアやスタッフが参加。福岡県大牟田市のゆめタウン大牟田では熊本YMCAが指定管理者として運営するリフレスおむたのプログラムに通う子どもなど14名が「募金

をお願いします」と協力を呼びかけました。小学5年生の江上楓さんは「小学校低学年の頃から参加しています。人の役に立つことができると思うと、やりがいを感じるし、楽しい。募金をしてくれる人がたくさんいるとうれしいです」と感想を述べました。

今年度は1,000万円を目標としており、1月に実施するチャリティープログラムなどを通して、さらに地域の皆さんに協力の呼びかけを行っていきます。

職員 辻健太郎



チャリティー

共にクリスマスを思う

ハートフルコンサートを開催

12月10日(土)、熊本白川教会を会場に市民クリスマスコンサートが開催されました。熊本YMCAが事務局を務め、県内の教会関係者らからなる市民クリスマス実行委員会が主催。ルーテル学院ハンドベル部によるクリスマスソングメドレーに始まり、日本バプテスト連盟東熊本キリスト教会牧師の三上充さんからクリスマスメッセージが伝えられた後、クラリネット奏者の柳瀬洋さんとピアニストの柳瀬佐和子さんによる演奏が行われました。

演奏の合間には柳瀬さんから「ドイツ留学時、師

事している先生から『譜面通りに正確に演奏することが音楽ではない』と言われました。それまで自分はクラリネットをコンクールで勝つための武器と思っていたのです。価値観が揺らぎ、どうしていいのか分からなくなったとき、聖書にふれる機会がありました。そこで心から音楽を楽しみ、神様に捧げようと演奏するようになりました」など、これまでの活動について語られました。益金は2020年7月豪雨被災者復興支援やウクライナ支援などに用いられます。

職員 吉田しのぶ



COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.14

総主事 光永 尚生



「聖書がわかれば世界が見える」 ～平和を創りだす働きを考える時必要な教養～

池上彰さんの近著に、「聖書がわかれば世界が見える」という著書があります。池上彰さんらしく、リベラルアーツにまつわるアプローチに溢れています。その中で、「世界で最も読まれている書物である『聖書』を多くの日本人は読んでいない。しかし、『聖書』を知ることは、世

界に通用する教養を身につけることができ、世界を理解することにつながる」ということが書かれています。本書では、さらに、聖書が世界にどのような影響を与えているのかを解説しています。

熊本YMCAは、2022年には、歴史という縦軸、YMCAの世界観という横軸を改めて確認し、その2つの十字架の交わりの中で、日々のプログラムの健全な運営を続けていくことが、大切なことであると発信してきました。私たちは聖書に学び、プログラムに際して、安全を願う祈りから始め、感謝の祈りを捧げて終わります。そして、愛と奉仕の業に励むという、キリスト教の大切な価値を忘れないためにも、熊本

YMCA本館の3階にあるジェーンズホールには、十字架の窓が設けられています。部屋の名称も、熊本バンドに深いゆかりのある、キャプテンジェーンズに由来するものです。このように、私たちは歴史に学び、世界観にふれながら、熊本の地域に根差し、世界を見つめる働きを続けてきました。

2023年の年頭に当たり、世界の平和を願い、平和な世界をつくり出す人たちの集まりとなるように、日本人だけが知らない世界の教養としての「聖書」にふれる機会を持ちたいものです。2月には、いじめをなくそうという「ピンクシャツデー」が広く進められていきます。様々な形で、私たちの周辺に「平和」をつくり出す働きをよろしく願いいたします。在主席安

熊本YMCA会員運動の活性化と創立75周年に向けて



2022年12月16日(金)、熊本YMCA臨時会員大会を開催しました。本大会は熊本YMCAがこれまで以上に多くの会員の意見を反映し、開かれた組織であり続けるため、またリーダーシップの育成のため、会則の改定を提案するものです。YMCA本館とサテライト会場をオンラインでつなぎ、123名が参加しました。

はじめに礼拝が行われ、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団希望ヶ丘教会牧師の本堀秀一さんが「第一のものを第一に」と題して奨励。熊本YMCA会長の吉本貞一郎さんが「YMCAは会員組織。この度の会則改訂は、会員運動の活性化を念頭に置いたもので、皆さんぜひ、オーナーシップを発揮して協議をお願いしたい」と挨拶しました。総主事の光永尚生さんから熊本YMCA会則変更の件について説明がなされ、質疑応答の後、賛成多数により議決。最後に光永さんから「熊本YMCA創立75周年に向けて」と題して特別報告がなされ、熊本YMCA副会長の守田富男さんによる挨拶をもって閉会しました。



第1部 礼拝



第2部 臨時会員大会

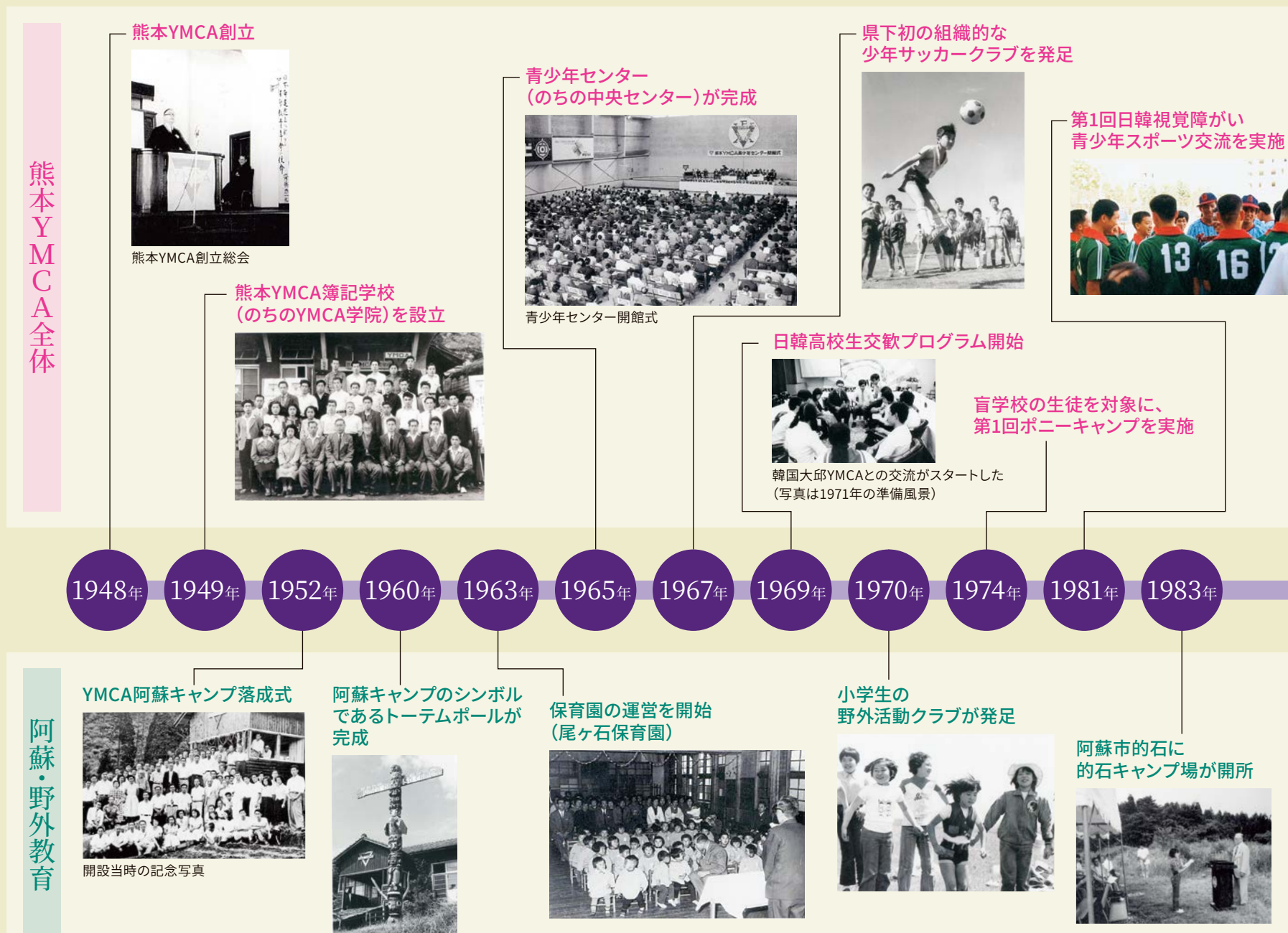


質疑応答



サテライト会場(みなみセンター)

写真でふりかえる熊本YMCAの歴史



臨時会員大会を開催



熊本YMCA会則の主な変更点

第10条 常議員の定員 17名以上21名以内 から 24名以上31名以内へ変更。

第13条 常議員の任期 任期4年(2期継続選任可) から 2年(3期継続選任可)へ変更。

第16条 功労常議員 常議員を2期以上 から 会員資格を有する者で常議員を延べ8年以上へ変更。

第39条 収支予算 常議員会に報告しなければならないから 議決を経なければならないへ変更。

第40条 収支決算 常議員会に報告しなければならないから 承認を受けなければならないへ変更。

総主事特別報告 「熊本YMCA創立75周年に向けて」より抜粋

熊本YMCAは2023年度に創立75周年を迎えます。今年度は阿蘇キャンプの開設70周年であり、様々な取り組みを行っています。皆さんと共に祝いし、100年に向けた歩みを考える機会にしたいと考えています。

私たち会員が活動を行う時、ローマの信徒への手紙8章28節の「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています」という御言葉を思っています。神様を愛すれば、それ以上に神様に愛される。皆さんと集まり、祈り願えば万事が益となるとマザーテレサに教えられました。

熊本YMCAは1948年に設立されました。それ以来様々なことがありましたが、全てのことが世界をみつめ、地域に根ざした働きにつながったと感じています。

私たち職員がYMCAという働きの場をあたえられ、会員として皆様とともに歩

むことができるのは奇跡です。全てのことに感謝しています。

YMCAが社会のプラットフォームになるための情報発信、交わりの場・学びの場の創出、国際交流、募金活動等の展開をしていくことが私たちのYMCAが創立75周年に向けて掲げるビジョンです。YMCAとは、「Young Men's Christian Association」ですが、「You must come again」の居場所であると思っています。YMCAはどなたでも戻ってこれることができる場所。YMCAというプラットフォームを通して社会に貢献するために共に歩んでいきましょう。

熊本YMCA総主事 光永 尚生



2023年に創立75周年を迎える熊本YMCAと、2022年に70周年を迎えたYMCA阿蘇キャンプや阿蘇の地域での運動、野外教育の歴史の一部を写真とともに振り返ります。

熊本県下初の許可を受けた
日本語学校を開設



幼稚園の運営を開始
(水前寺幼稚園)



第1回熊本YMCA
チャリティーランを開催



熊本YMCA本館が完成



グローバルな人材育成と子育て世代、シニア層の支援を目指す熊本YMCA本館

第1回会員スポーツ大会
を開催



第1回タイユースワーク
キャンプを実施



同年、タイ山岳民族の子どもたちの
支援活動をスタート

初の指定管理受託
(リフレスおおむた)



熊本地震復興支援



県下最大級となった益城町運動公園
の避難所を運営

熊本YMCAの使命策定

1990年 1993年 1994年 1995年 1999年 2000年 2003年 2007年 2012年 2016年 2021年 2022年

2023年
熊本YMCA
75周年へ

YMCA阿蘇キャンプの
新メインロッジが完成



YMCA阿蘇キャンプメインホールが
くまもとアートポリス推進賞選賞を受賞

九州北部豪雨や東日本大震災で
被災した子どもたちのための
「あそぼうキャンプ」を開催



阿蘇YMCAキャンプが
熊本地震ボランティアセンター
を開設



熊本YMCA阿蘇キャンプ70周年



第7回 熊本YMCA インターナショナル・チャリティーラン



YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざして全国で開催されています。

第7回熊本大会は11月27日(日)益城町総合運動公園グラウンドにてオープニングランを開催。晴天のもと220名が集まり、子どもから大人までが思い思いに楽しみました。

その後12月4日(日)までの8日間は参加者それぞれが走った距離をオンラインで申告し、目標積算距離2022kmを目指しました。「2022km先の北海道札幌市 羊ヶ丘展望台にあるクラーク像を目指して走ろう」を合言葉に総勢660名が走りました。

結果、8日間の総積算距離は1875.5m。目的地には届きませんでしたが、北海道函館市までの距離に到達することができました。



スタジオW ダンスサイト・リーによる開会パフォーマンス



趣向を凝らしたユニフォームでのんびりと



熊本YMCA学院の学生が本気のリレー



ボッチャ体験に熱中



見えない状態で走るってどんな感じ？
ブラインドラン体験



「僕が押してみるよ!」車いすで走行体験



あの映画とあの映画のキャラクターが
ファミリーだったとは!



好評の抽選会
「当たれ当たれ!」



「外れたー!」



リモート参加を含む各賞は以下の通りです。
(敬称略)

三菱商事

ドリーム アズワン グッドパフォーマンス賞

- 熊本ジェーンズワイズメンズクラブ
- チームどすこい
- トトロリーダー

1,000kmぴったりに賞

- さつぼろ羊ヶ丘展望台

ウィリアム・クラーク賞

- チームの部 ● 熊本にしY'S
- ファミリーの部 ● だだんだん
- 個人の部 ● たーさん

光の春

クリスマス、そして新年を過ぎて、少しずつ空が明るくなってきたように感じられます。北海道の教会にいた頃、新年のこのような空のことを「光の春」というのだと、現地の方に教えていただきました。

北海道の私がいた地域では、この時期は「春」どころか、年末年始の雪が根雪となり、地面は雪で真っ白です。気温も氷点下10度を上回ることはなく、むしろ冬本番の厳しい寒さはこれからやってくる。しかしそれでも、冬至を越え、日差しは少しずつ明るさを増している。その日差しに、「これからさらに厳しい寒さが待っているけれども、それでもその中で春は確かに近づいている」...そのような希望を与えられたものでした。

マルコによる福音書の「いちじくの木の教え」は、神の救いが近づく時のことをいちじくの実りの季節である夏にたとえてイエス様が語られたものですが、この「枝が柔らかくなり、葉が伸びる」というのは、まだ「冬」の段階で起こってくる変化だといえます。まだ夏どころか、春の兆しも見えないか見えないかの時期だけれども、その最中でいちじくはすでに、その先の実りの準備を始めている。

まだまだ寒い日が続きます。しかしその中でも確かに春の準備は進んでいる。そして神様もまたそのように、私たちが希望など見えないと思うときに、その真ただ中で私たちのための計画を進めてくださっている。そのことに希望を持つことができると思うのです。

わたしと聖句



日本福音ルーテル久留米教会
西川晶子

マルコによる福音書13章28節

「いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことがわかる」

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

熊本YMCAの使命

イザヤ書 40章31節

2022年度基本聖句

主に望みをおく人は新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。
走っても弱ることはなく、歩いても疲れな。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／辻 健太郎
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook